

学力検査問題「国語」(その一)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

1

次の文章を読んで、問一～問七に答えよ。

年齢四十歳の小学校の先生Aには妻と男の子一人、そしてまだ大学生の弟がいる。他に近い親族としては別居している父と兄がいる。この先生が、いくつ自分の呼び方を持っているかという点、少なくとも見て七種もあるのである。自分の子に対しては「おとうさん」、弟に対する時は「にいさん」、妻と話すときは「おれ」、父に対しては「ぼく」、兄に対しても同様である。隣の子に向っているときは「おじさん」、学校で生徒に教える時は「先生」、同僚に対しては「ぼく」、校長に対しては「私」であることが分った。

この人は話の相手が誰で、自分に対してどのような地位、資格を持っているかを見きわめた上で、その場に最も適切な言葉選びをしている。つまり相手の性質が、^①自分の自己を言語的に把握する角度に直接反映するのである。「自分は何者であるのか」ということが、「相手は誰か」に依存する構造になっていると言える。このような言語による自己把握の「^②A」性は、少なくとも西欧諸国の言語にはまったく見られないことは特筆に価する。

英、独、仏のようなヨーロッパの言語では、話者が自己を言語的に表現する角度は、原則として一定不変であって、用語としてはA代名詞のみが用いられる。私はこの型の自己把握を「^③I」的な自己表現と呼んで、日本型の「^④A」的自己表現と区別したのである。

さて、このような相手に依存する自己規定とは、自己が自己自身を見る視点を他者の立場に移すことを意味すると考えられる。人は自分を「おとうさん」として把握できるためには、自分の子供の視点から自分を見る必要がある。またある人が先生と自称しうるためには、生徒の立場から自己を見直さなければならないからである。

「^⑤A」的な自己表現の言語習慣は、かくして必然的に相手の立場からの自己規定、他者を介しての自己同一性の確立という心理的パターンにつながっていくものと言えよう。これは自己と相手の立場の同一化と称することもできる。自分が具体的な自分であるためには、相手が必要であり、その相手を通しての確認が要求されるからである。

私がこの節の始めに、自分の気持を打ち明け、理解し同調してくれるものがないという、最近の中学高校生の悩みの中に、アメリカ人の理解できない自我の構造が現われていることを指摘し、このことが日本人の人間関係の把握の様式および言葉の使い方に深いつながりがあると述べたのは、このことを指していたのである。

このしくみが、社会学者が日本人の特性として指摘する他人志向型の大勢順応主義と無関係でないことは明らかであろう。他の人の出方が分らないうちは、自分の意志を決定できないのである。しかしまた自分を自分の立場からは決定しにくいという心理構造は、マイナスの面ばかりあるとは言えないと思う。日本人は一貫した独自の主義方針をたてて、それをどこまでも貫こうとするより、具体的な状況に応じて、その時その時の最も効率のよい解決を見出すことに長じているのはこのためであって、^⑥独断専行的な硬直した姿勢がしばしば目立つ西欧的な行動様式という^⑦タイショウをなしている。

この相手にたよる「^⑧A」的な自己確認のパターンは、前節で述べた日本人の欧米人に対する心理的動揺をも説明することができる。私たちが人間関係における自己の座標を決定できるためには、相手が誰であって、その人が自分より上か下かといった相手の位置づけが先決条件となっている。

ところが外国人は、私たちがこのような位置づけを行う一切の手がかりを与えてくれない。そこで私たちは相手が決定できないために、結果として自己の位置づけもできないという心理的な不安定の状態に置かれることになる。また私たちは見知らぬ他人に対しては、顔見知りの人に対する場合とは非常に異なった接し方をするので有名である。これも、自分が位置づけすることが不可能な相手に対しては、相手を無視することによって自己の不安定化を避けようとするからに他ならない。日本人は相手の正体が不明のときは、その相手と正常な人間関係を組めないと^⑨言っても言い過ぎではないと思う。

日本人の持つ、この^⑩柔らかい、相手と同調しなければ安定しないような弱い自我の構造は次のような現象にもよく現われている。

日本人が外国人に日本語を教えているとき、相手が片言の日本語を使うものだから、いつの間にか引込まれて、気がついてみるとこちらも片言になっていることがよくある。相手の不確実な日本語が、こちらの心理的安定を^⑪クズしてしまうのである。

相手に合わせることをしない欧米人の場合は、こちらがたとえば下手な英語を使っても、彼等の英語がしどろもどろになるようなことは先ずないと言ってよい。

考えてみると、日本語の語彙の中には相手および他人の気持を、こちらが一方的に推しはかる性質の言葉や表現が多い。「察しがよい、悪い」、「^⑫B」がきく、きかない」、「思いやりがある、ない」のような表現は概してヨーロッパ語に翻訳しにくいものだが、他人が意見なり願望なりを言語で表明しないうちは相手の気持を推しはかるような態度に出ないことが、日本以外の文化では^⑬ジョウドウだということを知れば当然である。「ありがた迷惑」という複雑な感情も、他人の気持を察して行為を先取りすることが平素行われているからこそ成立するので、いつも明示的にたのまれたことだけしかやらなければ問題は生じないわけである。

学力検査問題「国語」(その二)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

相手の立場でものを考え、自己を拡大して他者を取り込むという傾向のある日本人的精神風土では、自己に対立するものとしての他者(相手)の意識が当然のこととしてキハク^④になる。日本人には真の対話がないとよく言われるが、対話とは元来、求心的に収斂^⑤する固い自我を持つもの同士が、自己に拮抗^{きっこう}し、対立する他者との意見の調整をはかり、利害を調節する機能をはたすものとしての言語なのであるから、相手の自己の立場の原点としてのみ考える拡散型自我構造^③を持つ日本人には最も異質なものである。

(鈴木孝夫、新潮社『閉ざされた言語・日本語の世界』より)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直し、漢字は読みがなを記せ。

問二 空欄Aには三字、空欄Bには一字の適語を、それぞれ入れよ。

問三 空欄ア、イに、対立する意味を持つ二字の熟語を、それぞれ入れよ。

問四 傍線部(1) 「自分の自己を言語的に把握する角度」とあるが、何のことか。二十字以内で説明せよ。

問五 傍線部(2) 「独断専行的な硬直した姿勢」とあるが、どのようなものか。「ゝ姿勢」につながる形で、文中から三十字以内で書き抜け。

問六 傍線部(3) 「柔らかい」とあるが、どういうことか。それを説明している次の文の空欄に、適語を文中から抜き出して記せ。

日本人の自我構造は、

ではなく、相手を通して初めて

が確立される特性を持つということを表現している。

問七 傍線部(4) 「拡散型自我構造を持つ日本人」とあるが、日本人の持つ「拡散型自我構造」とはどういうものか。「ゝ構造」につながる形で、文中から三十字以内で書き抜け。

学力検査問題「国語」(その三)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

2

次の文章を読んで、問一～問八に答えよ。

オリンピックは人間の身体の祭典であるといえ、何をいまさらということになりそうである。運動競技は身体の技を競うことにほかならないからである。だが、観客の身体の祭典でもあるといえ、むしろ逆に訝^{いぶか}しむ視線が返ってくるだろう。誰も観客の身体のことなど考えはしないからだ。

むろん、オリンピックが観客を必要としていることは誰も否定できない。いや、それこそこの国家規模のショー・ビジネスを成立させてきたものののだ。実際、ギリシアのナシヨナリズムを大いに刺激することによって成立した第一回大会はともかく、第二回、第三回、第四回大会などは万国博覧会の付録にすぎなかった。観客はむろんのこと、当時は、選手の動員さえ難しかったのである。

掲げた^①大義名分とは裏腹に、オリンピックは一貫してナシヨナリズムの祭典にほかならなかったが、そのナシヨナリズムを可能にしたのはじつはテクノロジーの発達だった。まず、選手と観客を動員する交通手段の発達が必要だった。A、競技の様子を報道する通信手段、ラジオやテレビといったマス・メディアの発達も不可欠だった。そしてこのマス・メディアの発達は、観客の身体をも大きく^②ヘンヨウさせたのである。人はスポーツを好むだけではない。それを見ることも好む。なぜ好むのか。他人の身体と同調したいからである。同調することによって、自身の身体の限界を試したいからだ。スポーツだけではない。人間がダンスのような身体芸術を生み出したのはまさにそのためである。逆に、ダンスやスポーツといった身体芸術があったからこそ、人間という特殊な動物が生まれたのだといっていいほどである。人間はおそらく、ダンスやスポーツのなかで独自の共同性を培ってきたのだ。

古代オリンピックもまた^①そのような身体^②の共同性に基づいて成立したとすれば、近代オリンピックはその様相を大きく変えたといわなければならない。マス・メディアは、その場にはいない人間をも観客に変えてしまったのである。そしてその場にはいない人間にとっては、オリンピックは、身体の問題である以上に、意識の問題、頭脳の問題であるほかなかった。すなわち、テクノロジーの発達は、オリンピックを身体の祭典から頭脳の祭典に変えてしまったのである。

もちろん、スポーツの祭典から身体^③の要素がまったく払拭されるなどということはありえない。オリンピックはこれからも身体の豊かさを見直す^③ケイキとしてありつづけるだろう。B、マス・メディアによって報道されるのは、基本的に勝敗であり記録である。また、あくまでも

それにまつわるエピソードであり、物語である。映像もまた、その物語を^④ホカンすべく編集されるといつていい。それは、見ることによって同調できるような身体の豊かさではない。観客は身体によって感じる以上に、頭脳によって考えるようになってしまったのである。

○・○一秒が争われる世界は、実際、身体というよりはむしろ頭脳に属するというべきだろう。むしろ、オリンピックを変えたテクノロジーと

いうことでは、とりわけ陸上競技や水泳といった競争種目において、計測手段の発達を挙げるべきかもしれない。C時計は時と場所の重要性を大きく減じた。時と場所は選手にとっても観客にとっても決定的に重要なはずだが、記録の世界では二義的なものになってしまふ。正確な計測は、時と場所を超えた抽象的な競技空間を作ってしまうからだ。いまや、^③いつどこで走ろうとも、選手は、歴史上のあらゆる人間が走つたのと同じ場所を走っているに等しいのである。

むろん、それは錯覚にすぎない。そのことはおそらく競技するものがもっともよく知っているだろう。だが、オリンピックの全体がひたすらI的な競技空間を目指していることは疑いない。競技場の建設ひとつにそれは明らかである。理想的な競技場とはすなわちI的な競技空間にほかならない。そしてそれは、身体的というよりは頭腦的といったほうがいいような空間なのである。そこには現実の観客など存在しないほうがいいのだ。

だが、マス・メディアの発達は、オリンピックの異なった面をも引き出した。精密になったテレビ画像は、観客が存在したほうがいい競技、いや、観客の身体の反応を必要とさえする競技の重要性を^⑤シサしはじめたのである。球技や格闘技もそうだが、とりわけ、ある意味では計測不可能な芸術点なるものを含む一群の競技、すなわち、新体操、フィギュア・スケート、シンクロナイズド・スイミングなど、一般に芸術スポーツと呼ばれる種目がそれである。いまや、オリンピックの未来は、この芸術スポーツの行方にかかっているように思われるほどだ。まさにそこにおいて、^④観客がかつての身体性を取り戻しうるかもしれないからである。

(三浦雅士、NTT出版株式会社『考える身体』より)

学力検査問題「国語」(その四)

(2025 ー 般 II)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

問一 傍線部①「大義名分」の意味として最も適当なものを、ア～エから選び、記号で答えよ。

ア 主義 イ 公約 ウ 根拠 エ 理念

問二 傍線部②～⑤のカタカナを漢字に直せ。

問三 空欄A～Cに入る適語を、ア～オから選び、記号で答えよ。

ア だが イ むしろ ウ なぜなら エ さらに オ たとえば

問四 傍線部(1)「そのような身体の共同性」とは、どのようなものか。四十五字以内で説明せよ。

問五 傍線部(2)「近代オリンピックはその様相を大きく変えた」とあるが、観客の変化の様相を述べている部分を、本文中より三十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を記せ。

問六 傍線部(3)「いつどこで走ろうとも、選手は、歴史上のあらゆる人間が走ったのと同じ場所を走っているに等しい」とはどういうことか。最も適当なものを、ア～エから選び、記号で答えよ。

ア 選手は、動画で観た過去・現在の競技者たちを、意識しながら走っているということ。

イ 選手は、バーチャル空間において、あらゆる選手と一緒に走ることが可能だということ。

ウ 選手は、時と場所が違っても、同じ環境、同じ条件で走っているとみなされるということ。

エ 選手は、どんな競技場でも、正確に計測された完全に同じ距離を走っているはずだということ。

問七 空欄Iに入る適語を、ア～オから選び、記号で答えよ。

ア 記録 イ 抽象 ウ 具体 エ 芸術 オ 身体

問八 傍線部(4)「観客がかつての身体性を取り戻しうるかもしれない」とあるが、それは観客がどうすることで可能となるのか。二十字以内で説明せよ。

学力検査問題「国語」(その五)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

3

次の文章を読んで、問一～問五に答えよ。

1974年に東京・豊洲でセブンイレブンの1号店が開店してから半世紀。コンビニエンスストアは増え続け、近年は頭打ちとはいうものの、業界全体で5・6万店弱に達している。セブンイレブンはアメリカが本社だったが日本側が経営方針をA、のちに本社を買収している。日本色の強い経営体だ。帰宅前に一度は寄る、地方都市で見当たらないと不安になるなど、日本人の日常意識に食い込んでいる。

流通はそれぞれの時代に価値を提案してきた。「よい品をどんどん安く」(ダイエー、中内功)や「量から質へ」「無印良品」(西武百貨店、堤清二)、「小売業は平和産業である」(イオン、岡田卓也)といった具合に。

ではコンビニは何を残したのか。誤解されている面があると感じる。コンビニの最大の特徴は、モットー^①を掲げた流通の雄たちとは異なり、理想や思想を持たない点にある。

コンビニが実現し、いまなお持続しているのは徹底した顧客データの収集と分析だ。武器となったのが1982年に導入されたPOSシステムだった。レジで支払う際、コンビニ側は性別や年齢層などの顧客のソクセイ^②を打ち込んでいる(一部グループでは業務内容の急増から廃止)。情報はチェーンの中枢に送られ、集計される。顧客の消費動向はリアルタイムで把握され、発注の参考にされ、棚の商品の入れ替えが行われる。消費者の潜在欲求の洗い出しに専念し、即座に品揃え^③に反映させる「死に筋カット」^④だ。

データの収集と分析を徹底し、結果は過去のものとして短時間で破棄される。コンビニが表現しているのはみずから提案する価値ではなく、顧客の「いま、ここ」の平均的な欲求なのだ。個人の生き方や自由な暮らしを支える装置ではあるが、それは鏡のように私たちの相貌^⑤を映し出す。個や自由は私たちが求めるから提供されるにすぎない。

経済学の歴史において、大半の学者は生産者や中間業者が価値を提案し創出すると考えてきた。消費者が求める欲求が市場においてはBだけでなく商品の種類まで生産者に実現されるという「主観主義」を提起したのは、C・メンガーを創始者とするオーストリア学派だった。その意味で彼らが言う「消費者主権」は、情報伝達システムとしてのコンビニが実現したかに見える。

セブンイレブンの場合、出店の形態にフランチャイズや直営店、エリアライセンスシリーズと種別があるが、消費者の欲求に応じた品揃えという基本は変わらない。それでもオーナーがスーパーや八百屋など周囲の流通状況、売れ残り率を勘案し、丸ごとの野菜を品揃えしているデンボも少数だが存在する。これも売る側が好きな商品を並べたというより、周囲の状況から消費者の願望を汲み取った結果である。

ものを作り売る側の主体性を滅却した点で、コンビニは日本文化の到達点である。戦後日本の教育では主体性や個性が重視された。破産も恐れず技術革新に突き進むビル・ゲイツやイーロン・マスクのような個性が生まれないことは日本経済の宿痾^⑥であるかのように言われた。その一方で獲得したのは、主体性を消去する文化^⑦だった。コンビニは日本そのものの似姿である。

※宿痾 長い間治らない病気
(松原隆一郎、『朝日新聞』二〇二四年五月三〇日「主体性消したコンビニ 重なる日本」より)
朝日新聞社に無断で転載することを禁じる 承諾番号2510840

問一 空欄Aに入る語句として、最も適当な四字熟語をア～オから選び、記号で記せ。

- ア 変幻自在 イ 自家撞着 ウ 同工異曲 エ 換骨奪胎 オ 博覧強記

問二 傍線部①～③のカタカナを漢字に直し、漢字は読みがなを記せ。

問三 空欄Bに入る語句として、最も適当な一字の語を、文中から抜き出して記せ。

問四 傍線部(1)「死に筋カット」とあるが、その結果実現される状態を、文中から十五字以内で抜き出して記せ。

問五 傍線部(2)「主体性を消去する文化」とあるが、「主体性を消去する」とはどういうことか。解答欄につながる形で、文中から十字以内で抜き出して記せ。

問七		問六	問五		問四	問二	問一
		あ				A	①
		い				B	②
						問三	
						ア	③
構造			姿勢				
						イ	
							④
							⑤

2	
問一	
問二	
②	
③	
④	
⑤	
問三	
A	
B	
C	

[illegible]

3	
問一	
問二	
①	
②	
③	
問三	
問四	
問五	ということ。

※	※
※	※

問七		問六	問五		問四	問二	問一
者	相	あ	こ	一	相	A	①
を	手	一定不変	ま	貫	手	一	対照
と	の		で	し	に	人	
り	立		も	た	対	称	
込	場	い	貫	独	し	B	②
む	で	自己同一性	こ	自	て	気	崩
	も		う	の	の	問三	
	の		と	主	自		
	を		す	義	分	ア	③
	考		る	方	自	相	常道
構造	え		姿勢	針	身	対	
	、	を		の	イ		
	自			た	呼	絶	④
	己			て	び	対	稀(希)薄
	を			て	方		
	拡			、	。		
	大			そ			
	し			れ			
	て			を			
他	ど						

2							
問一	問三		問四			問五	問八
ウ	A	エ	身	の	。	身	選
	B		芸	体	身	手	
			術	と	体	の	
問二	ア	を	同		よ	体	
②		見	調		っ	の	
変容		る	す		ゝ	豊	
	人	る	て	か			
	々	こ	し	さ			
③	オ	が	と	ま	に		
契機		、	で	っ	同		
		そ	培	た	調		
	れ	わ	問六	す			
④		を	れ	ウ	る		
補完		行	て	こ			
		っ	き	と			
	て	た	。				
⑤		い	共	問七			
示唆		る	同				
		者	性	イ			

3			
問一	エ	量	問二
①	かか		
②		属性	
③	店舗		
問三			
問四	消費者の欲求に応じた品揃え		
問五	理想や思想を持ったない		ということ。